

再評価個表

事業名	広域河川改修事業	事業主体	愛媛県
施設・工区名等	(一) <small>ひろみがわ</small> 広見川水系 広見川	事業箇所	松野町大字 <small>わらびょう</small> 蕨生 ～ 鬼北町大字 <small>おきのの</small> 興野々
事業主旨	<p style="text-align: center;"><small>ひろみがわ</small> 一級河川広見川は、河川の蛇行が著しく、流下能力が過小であるため、頻繁に家屋や農作物に浸水被害が発生している。</p> <p style="text-align: center;">このため、本事業では築堤による河積の拡大及び横断工作物の改築を行うことにより、浸水被害の低減を図り、住民生活及び生産活動の安定を図るものである。</p>		
再評価の実施理由	「再々評価実施後5年が経過して継続中」の交付金事業		

1. 流域の概要

<p><small>ひろみがわ</small> 広見川は、その源を北宇和郡 <small>ちちのかわ</small> 鬼北町父野川に発し、鬼北町、松野町を貫流し高知県四万十市 <small>えかわさき しまんとかわ</small> 江川崎で四万十川に合流する流路延長59km、流域面積364km²の一級河川である。</p> <p>広見川の流域の大半は山地であるため、河川沿いの平地に水田や集落が集中しており、川幅が狭小な上、河道の著しい蛇行も重なり、家屋や農地に浸水被害が発生している。</p>
--

2. 事業概要及び事業経緯

事業採択	平成元年度	完成予定(注)	令和10年度(見込み)
用地着手	平成元年度	工事着手	平成2年度
全体事業費	6,690百万円(うち用地費:1,886百万円)		
(1) 事業概要	<p>全体計画13,245m、築堤13,245m、掘削250,000m³、護岸工8,590m、帯工1基、床止工6基、道路橋3橋、鉄道橋2橋、揚水機2基、取水堰3基</p>		
(2) 事業経緯	<p>平成 元年 広域河川改修事業採択 平成21年2月 渡川水系河川整備基本方針策定</p>		

(注) 完成予定は、今後の予算の見通しや用地買収の進捗等の不確定要素があるため、現時点の見込みを示す。

3. 事業の必要性及び整備効果等

(1)事業の必要性	<p>事業区間の流域では、平地で河積が狭く、家屋や農地の浸水被害が度々発生していることから、築堤による河積の拡大や横断工作物の改築を行うことにより、浸水被害軽減を図る必要がある。</p>
(2)事業の整備効果	<p>広見川は、河川改修を年超過確率 1/50 の規模の洪水（毎年、1 年間にその規模を超える洪水が発生する確率が 1/50 (2%) である）を安全に流下させる計画を進めており、これにより家屋 1 4 0 戸、農家 2 2 戸、事業所 2 4 事業所、農地 9 0 h a の浸水被害の軽減を図ることができる。</p>
(3)事業を巡る社会経済情勢等の変化	<p>【地域の協力体制】 関係者と町による調整が行なわれており、円滑に事業が進捗している。また、用地買収についても地元地権者の協力を得て順調に進んでいる。</p> <p>【地域の事業に対する社会的評価】 地元における浸水被害軽減に対する改修の効果は高く評価されており、整備の完了が求められている。</p>

4. 事業の進捗状況及び進捗の見込み

<p>(うち用地費) R 4 末投資事業費</p>	<p>(1, 8 7 6 百万円) [進捗率：9 9 . 5 %] (事業費換算) 6, 2 6 9 百万円 [進捗率：9 3 . 7 %] (事業費換算)</p>
(1)事業の進捗状況	<p>令和 4 年度末において、事業進捗率で 9 3 . 7 %、用地買収については 9 9 . 5 % の進捗率となっている。また、特に問題もなく整備が図られており、今後とも順調な事業の進捗が見込まれる。</p>
(2)これまでの整備効果	<p>下流より約 4, 6 0 0 m は整備済み、残りの区間は暫定整備が概ね完了しており、河積の拡大により浸水被害の軽減が図られている。</p>
(3)今後の事業進捗の見込み	<p>地元の協力体制も整っており、今後とも順調な事業進捗が見込まれ、令和 1 0 年度事業完了に向けて事業の進捗を図る。</p>

5. 事業の投資効果（費用対効果分析）

(1) 費用便益比

C：総費用＝21,110百万円

- ・建設費 19,182百万円
- ・維持管理費 1,928百万円

B：総便益＝36,569百万円

- ・一般資産被害（家屋、家庭用品、事業所、農漁家）及び農作物被害
 - ・公共土木施設等被害（JR予土線、町道）等
 - ・間接被害（営業停止損失、家庭・事業所の応急対策費用）
 - ・想定氾濫区域内の資産
 - ・残存価値
- | | | | |
|------|-------|----|------|
| 家屋 | 140戸 | 農家 | 22戸 |
| 事業所数 | 24事業所 | 農地 | 90ha |
- （建設業・小売業等）

$$B/C = 36,569 / 21,110 = 1.73$$

6. コスト縮減や代替案立案等の可能性

工事施工に当たっては、埋戻材料及び盛土材料に建設発生材を有効活用し、コスト縮減を図る。

また、残土搬出については、公共工事間流用が図れるよう、各関係機関との情報交換を積極的に行なう。

7. その他

工事の施工にあたっては、自然環境及び河川利用の実態の把握に努め、治水面及び利水面との調和を図る。

8. 対応方針（素案）

本事業を『継続』としたい。